

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

**1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況**

本市では、これまで集積された都市施設などのポテンシャルを活かすとともに、民間活力を取り入れながら、都市機能の誘導を図り、多くの人でにぎわい、誰もが安心・快適に暮らせるまちづくりに取り組むため、目指すべき中心市街地の都市像を「官民協働による 多世代がにぎわう 安心・快適・利便性の高いまちづくり ～まちなかスマートシティの実現～」と定め、「まちなか居住の推進」と「経済活力の向上」、「まちなかにぎわい創出」の3つの目標を掲げ、各種事業に取り組んでいる。

計画の核となる「大型空き店舗等利活用事業」は、中心市街地活性化基本計画作成時から事業着手が遅れたこともあり、当初想定した程の効果は発現しない見込みである。しかしながら、令和5年度には新施設の基本設計が完了するとともに既存建物の解体に着手し、実際に事業が動き出したことが対外的にも目に見えることで周辺商業活性化への効果が期待される。

一方、「新天町二丁目大型空き店舗利活用事業」「宇部新天町名店街区再生事業」等は概ね順調に進捗しており、引き続き施設の魅力向上やエリア価値の向上に伴う居住人口増加やにぎわい創出への効果が期待される。

また、中心市街地でのにぎわい創出の取組として、各種イベント等の開催も重要な施策と考えている。令和5年度においては、アーバンスポーツ等をメインとするイベントを国道190号（常盤通り）のウォークアブル化に向けた取組に併せて道路空間を活用し実施したほか、本市出身のアニメ映画監督の作品にちなんだ周遊型イベント、歴史ある「新川市まつり」「宇部まつり」等を新型コロナウイルス感染症による制約なく実施できた。その他にも、中心市街地内の公園等を活用した比較的小規模なイベントの開催数も増加しており、恒常的なにぎわい創出を目的に、年間を通して定期的にイベントを開催する団体も生まれている。

これらの各種イベントの実施や情報発信事業等により、歩行者通行量は目標値には届いていないものの増加傾向にあり、にぎわいの創出に一定の効果が表れているものと考えられる。

なお、中心市街地の居住人口は一時的に増加に転じた年もあるが基本的には減少傾向にある。少子高齢化による自然減少の影響が大きく今後も人口の減少傾向が続くとみられ、特に社会増に着目した長期的な対策が必要と考える。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度 10月1日、単位：人)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	5,875	5,774	5,709	5,730	5,578	
人口増減数	▲55	▲101	▲65	21	▲152	
自然増減数		▲70	▲65	▲9	▲42	
社会増減数		▲31	3	32	▲108	
転入者数		204	214	463	332	

※職権消除等により、人口増減数は自然増減数と社会増減数の合算と一致しない場合がある。

(2) 営業店舗数

(単位：件)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
新天町エリア		58	60	62	61	
常盤町エリア		35	36	38	36	
琴芝町エリア		47	47	46	47	
松島町エリア		69	70	69	71	
中央町エリア		276	274	268	263	
合計		485	487	483	478	

※(株)にぎわい宇部が、中心市街地内の主要商店街周辺(新天町エリア、常盤町エリア、松島町エリア、琴芝町エリア、中央町エリア)の出店状況等について現地調査した結果。なお営業店舗数とは、物販店舗、飲食店舗、サービス店舗、事務所の合計数値である。

(3) 空き店舗数

(単位：件 カッコ内は空き店舗率(%))

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
新天町エリア		21 (26.6)	20 (25.0)	17 (21.5)	16 (20.8)	
常盤町エリア		10 (22.2)	10 (21.7)	8 (17.4)	6 (14.3)	
琴芝町エリア		22 (31.9)	21 (30.9)	20 (30.3)	15 (24.2)	
松島町エリア		17 (19.8)	16 (18.6)	17 (19.8)	16 (18.4)	
中央町エリア		95 (25.6)	93 (25.3)	95 (26.2)	93 (26.1)	
合計		165 (25.4)	160 (24.7)	157 (24.5)	146 (23.4)	

※(株)にぎわい宇部が、中心市街地内の主要商店街周辺(新天町エリア、常盤町エリア、松島町エリア、琴芝町エリア、中央町エリア)の空き店舗の状況について、現地調査した結果。

**(4) 地価**

(単位：円/㎡)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
常盤町一丁目 8番5	84,900	84,000	83,200	82,700	82,700	
中央町二丁目 6番8	55,600	54,000	52,500	51,600	51,200	
常盤町二丁目 6番2	52,000	51,900	51,800	51,800	52,000	

**2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

令和2年3月に本市では初となる内閣総理大臣の認定を受けた宇部市中心市街地活性化基本計画は、4年目を終えたところである。

計画に掲げている3つの目標指標のうち、「居住人口」については基準値5,930人(平成30年)を352人下回り最新値5,578人となっている。目標達成に寄与する事業の着手が遅れたことに加えて、自然減や社会減による人口減少の影響が大きな要因であると考えられる。現時点で目標値6,200人の達成は非常に困難であるが、「新天町名店街区再生事業」の複合ビル工事など社会増が期待できる事業を遅滞なく進めていただくことで数値の改善を期待したい。

「新規出店数」については、基準値11件/年に対し最新値が33件/年となり、目標を大幅に超えている。理由として、「宇部市中心市街地建物リノベーション事業」などの助成金事業が大きく寄与しているものと思われるが、一方では閉店数も28件/年あり、営業店舗数の純増は5件/年しかない。今年度は、宇部市中心市街地活性化基本計画(第2期)の策定期間でもあるので、今後は新規出店数と閉店数を加味した純増数も併記し、閉店数の減少に係る取組も強化すべきである。

「中心市街地歩行者通行量(休日1日当たり)」については、基準値2,561人(令和元年度)に対して、最新値は4,041人(1,480人増加)となっており順調に数字を伸ばしている。新型コロナウイルスの感染症法の分類が5類になったことによりイベント時の行動規制が解除され、これまで継続して行ってきた周遊型イベント「まちじゅうエヴァンゲリオン」や社会実験「ときわいこっと」の成果がようやく指標に反映されるようになったことは大変喜ばしい。引き続き目標値5,150人の達成に向けて中心市街地におけるイベントの継続実施をお願いしたい。

以上、「居住人口」の最新値については、目標値に及ばない状況ではあるが、旧山口井筒屋宇部店跡地の利活用を推進する「大型空き店舗等利活用事業」や「宇部新天町名店街区再生事業」などの大型事業を遅滞なく進めてくことで社会増による数値の改善が期待できると考えられる。

協議会としては、引き続き、市、商工会議所ならびに株式会社にぎわい宇部と連携して中心市街地の活性化及びにぎわい創出に向けた役割を果たしていきたい。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
目標① まちなか居住の推進	中心市街地 居住人口	5,930人 (H30)	6,200人 (R6)	5,578人 (R5)	C	2	2
目標② 経済活力の向上	新規出店数 (起業も含む)	11件/年 (H28~H30 年の累計から 算出)	16件/年 (R6)	33件/年 (R5)	A	①	①
目標③ まちなかに ぎわい創出	中心市街地 歩行者通行 量(休日1 日当たり)	2,561人 (R1、8地 点)	5,150人 (R6、8地 点)	4,041人 (R5、8地 点)	B	1	1

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### <中心市街地居住人口>

当該目標値へ効果を発揮する主な事業は、「宇部新天町名店街区再生事業」や「大型空き店舗等利活用事業」などのハード整備と、「中心市街地都市機能居住誘導事業」などの各種補助金支援によるものである。

令和4年に民間マンション2棟の竣工により一時的に増加した居住人口は、令和5年度には再び減少となった。「宇部新天町名店街区再生事業」は予定通り令和4年度より事業を開始し、令和6年度の事業完了に伴う人口増が期待できるものの、「大型空き店舗等利活用事業」は基本計画作成時の予定からは事業着手が遅れたため、当初見込んだほどの効果発現が望めない状況である。また、少子高齢化による自然減の影響も依然大きく、現状では目標値の達成は困難と見込んだ。

#### <新規出店数(起業も含む)>

基準値(計画開始前3カ年の平均値)の11件、目標値の16件に対し、令和5年度の実績は33件と目標値を大きく超えている。このうち、約7割が飲食店であり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響も落ち着きを見せてきたこともあって、開業に向けた動きが活発になっていると考えられる。

目標達成に寄与する各種事業や、売上の向上を目的とした店舗のリニューアルに係る費用の一部を補助する「商業活性化事業」などを継続して実施いくことで、今後も一定数の新規出店が見込まれるため、現段階では、最終年度における目標は達成できると判断した。

### ＜中心市街地歩行者通行量（休日1日当たり）＞

目標値には届いていないものの、基準値や昨年度の数值からは大きく増加した。各事業による効果が表れ始めているほか、新型コロナウイルス感染症の5類移行により各個人の外出意欲が上がってきたことや、各種イベント等が制約なく従前の規模で開催されるようになったことが増加に寄与しているのではないかと考えられる。

引き続き情報発信や各種イベント実施等、効果的な事業の推進により通行量増加が期待されることから、計画最終年度における目標達成は可能と見込んだ。

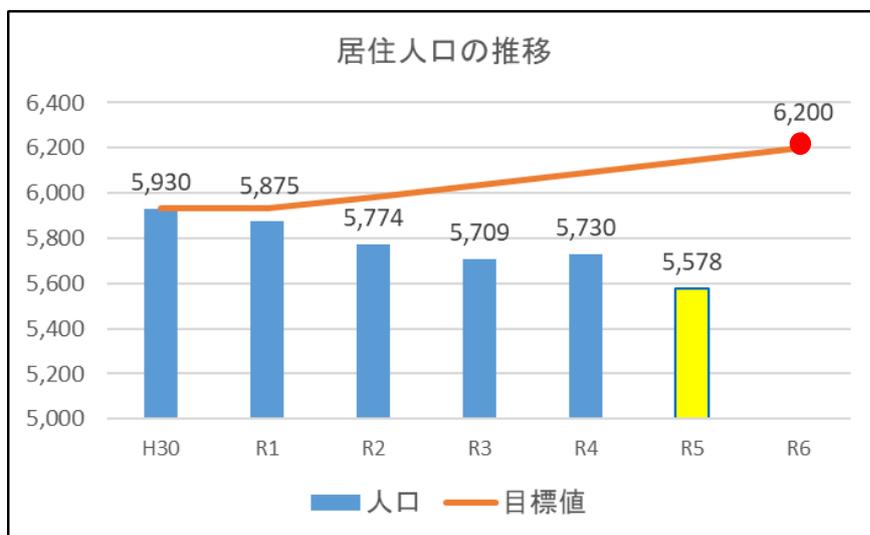
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップから見通しの変更なし

#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「中心市街地居住人口」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 76～P. 79 参照

##### ●調査結果と分析



年	(人)
H30	5,930 (基準値)
R2	5,774
R3	5,709
R4	5,730
R5	5,578
R6	6,200 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳をもとに算出

※調査月：令和5年10月1日

※調査主体：宇部市

※調査対象：中心市街地内の人口

町名	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	人	人	人	人	人	人
宇部市全体	165,584	164,387	163,240	162,070	160,690	158,794
中心市街地	5,930	5,875	5,774	5,709	5,730	5,578
若松町	479	476	471	469	473	464
朝日町	392	403	395	415	496	474
琴芝町一丁目	342	417	414	402	471	473
琴芝町二丁目	165	159	162	164	157	153
上町一丁目	96	94	100	94	95	96
松島町	365	358	348	344	326	315
寿町一丁目	417	407	404	389	363	366
寿町二丁目	273	290	284	297	304	302
寿町三丁目	432	438	445	444	426	420
中央町一丁目	160	141	138	136	128	121
中央町二丁目	190	187	189	193	203	189
中央町三丁目	406	387	376	355	341	305
相生町	171	198	187	137	144	145
常盤町一丁目	175	172	170	171	169	167
常盤町二丁目	339	337	315	318	316	304

西本町一丁目	231	220	210	202	208	199
新町	236	222	219	217	222	223
新天町一丁目	179	167	172	172	169	170
新天町二丁目	166	159	166	163	145	144
東本町一丁目	263	260	247	226	187	197
東本町二丁目	453	383	362	401	387	351

### 〈分析内容〉

中心市街地内の人口は、令和4年度にやや増加したものの令和5年度では再び減少しており、目標値との乖離も大きくなっている。また、基準値（平成30年度：5,930人）からの減少率は5.9%で、宇部市全体（平成30年度：165,584人→令和5年度：158,794人）の4.1%と比べても減少割合が大きい。

特に減少率の大きい「中央町三丁目」「東本町二丁目」については、調査（令和5年10月1日）直前にそれぞれ借上り営住宅が民間所有者に返還され入居者がエリア外の市営住宅に転居した影響が大きい。その後は民間アパートとして運営されており、次年度調査時点では多少の回復が見込まれる。一方、基準値より人口が大きく増加している地区（朝日町、琴芝町一丁目）は、民間の分譲マンションの竣工によるものだが、これらは基本計画の認定・実施による活性化の機運醸成・エリア価値向上が期待されて進出したものだと考えられる。

なお、P2の表にも記載のあるとおり、令和元年度以降中心市街地全体で合計186人の自然減となっており、人口減少に大きな影響を与えている。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 宇部新天町名店街区再生事業（株にぎわい宇部、宇部新天町名店街協同組合）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】 [認定基本計画：令和2年度～令和6年度]
事業概要	商業機能が低下した宇部新天町名店街の街区のあり方を見直し、共同住宅や医療・福祉サービスの複合ビルを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省） （令和4年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	34戸程度の住居を含む複合ビルの整備を予定しており、居住人口50人程度の増加を見込んでいる。令和5年度に複合ビルの建設に着手しており、令和6年度中に完成予定である。
事業の今後について	令和6年度中の完了を目指し事業を進めていく。なお既に完成後の入居者の募集を開始している。

#### ②. 大型空き店舗等利活用事業（宇部市、民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～令和8年度【実施中】
事業概要	旧山口井筒屋宇部店跡地に「子育て支援拠点」と「交流機能」を核とする公共機能を整備するとともに、商業施設などの民間機能を誘致する。

国の支援措置名 及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） （令和5年度～令和8年度）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	本事業によって550人程度の居住人口増加を見込んでいるが、令和2年度9月市議会において施設設置条例案が否決されたため、ゼロベースから再検討となり、事業着手に遅れが生じた。 令和5年度に施設の基本設計を完了し、既存建物の解体に着手した。
事業の今後につ いて	令和7年度には新たな建物（にぎわい交流拠点）の建設を開始し、令和8年度の整備完了・にぎわい交流拠点のオープンに向けて事業を進めていく。

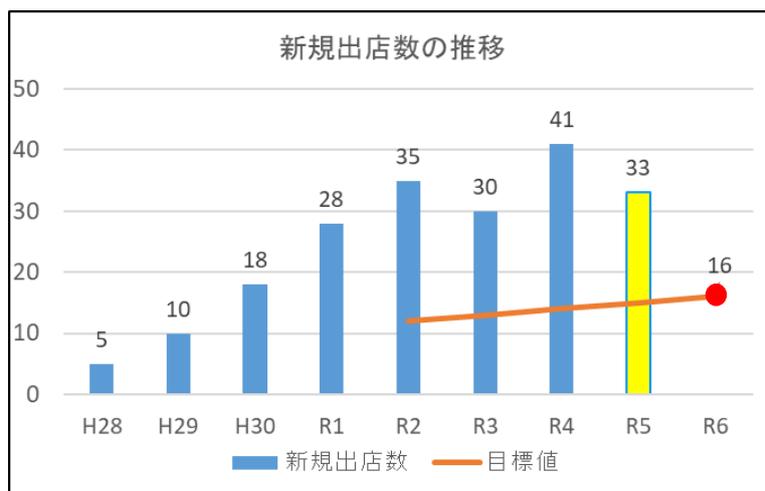
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

「新天町名店街区再生事業」の効果や、民間アパートの建設による人口の社会増は一定数見込まれるものの、現時点では民間マンション等大規模な集合住宅の建設や宅地用の再開発といった予定はなく、計画期間内に大幅な社会増は厳しい状況であると考え。また、「大型空き店舗等利活用事業」の事業着手の遅れにより、当該事業による効果発現は当初想定した程は望めない見通しとなった。さらに、自然減の影響は依然大きく、現状で目標値の達成は困難と判断している。

一方で、令和8年度の「大型空き店舗等利活用事業」の完了（にぎわい交流拠点の完成）後にはエリア価値の向上による居住人口増加が見込まれる。引き続き各種事業を継続していくとともに、特に人口の社会増に向けた長期的な対策を検討・実施していく。

(2)「新規出店数(起業も含む)」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 80~P. 81 参照

●調査結果と分析



年	(件/年)
H28~H30の累計から算出	11 (基準値)
R2	35
R3	30
R4	41
R5	33
R6	16 (目標値)

※調査方法：(株)にぎわい宇部による実態調査

※調査月：令和6年3月

※調査主体：(株)にぎわい宇部

※調査対象：中心市街地内における新規出店者

〈分析内容〉

一部、効果が発現していない事業があるものの、目標達成に寄与する主要事業は概ね順調に進捗し、令和5年度も目標値を大きく超える新規出店数があった。主要事業以外でも、「中心市街地都市機能居住誘導事業」の一つである「空き店舗リノベーション補助金事業」により令和5年度に補助金を活用して3件の出店があった。また、都市再生推進法人である株式会社(株)にぎわい宇部が実施する「出店サポートセンター事業」では出店希望の相談者に対し、エリア内の空き物件や各種補助金制度の紹介等を行っており、事業者の新規出店に大きく寄与している。

なお、新規出店の約7割が飲食店であり、新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着いてきたことで出店の機運が高まっていると考えられ、今後も一定数の新規出店があると推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商業活性化事業(宇部市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内で商業活動を行っている事業者が実施する、来客数及び売り上げの向上を目的とした店舗改修費等の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) (令和2年度～令和6年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	主要事業全体の効果で、新規出店数の前年度比+1件を想定している。 令和5年度は2件の支援を行った。
事業の今後について	補助要件等の見直しも含め、引き続き事業を継続していくことで既存店舗の売り上げ向上等への寄与を図る。

②. ICT サテライトオフィス等誘致促進事業（宇部市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	サテライトオフィス向けの施設整備の支援をするとともに、誘致活動をすることで、首都圏のICT企業等をターゲットとしたサテライトオフィスの誘致促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府） （令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	主要事業全体の効果で、新規出店数の前年度比+1件を想定している。 これまでの事業効果等を踏まえ、令和5年度は事業実施を見送った。
事業の今後について	新たな制度の検討など、中心市街地への事務所・オフィス誘致に向けたより効果的な施策の実施を目指す。

③. まちなかオフィス等立地促進事業（宇部市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	市外事業者の新規オフィス開設への家賃補助や新たな就業者への雇用奨励金等を補助することで、中心市街地へのオフィス等の立地を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	主要事業全体の効果で、新規出店数の前年度比+1件を想定している。 令和5年度は4事業者に対し補助を行った。
事業の今後について	引き続き事業を継続し、中心市街地での起業創業につなげていく。

④. 中央町地区起業拠点整備事業（株にぎわい宇部、民間事業者）

事業実施期間	令和3年度～【未】
事業概要	Society5.0時代に対応したビジネス起業拠点の周辺環境の整備等の支援を行う
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省） （令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	主要事業全体の効果で、新規出店数の前年度比+1件を想定している。 拠点整備のための用地交渉に時間を要しており、事業着手ができていない。
事業の今後について	現在ハード事業は市役所周辺・国道190号のウォークアブル化に集中していることもあり、当面は事業を積極的に推進しない。今後、民間事業者の機運醸成に併せ用地交渉の支援等必要な支援を行う。

⑤. オープンイノベーション・SDGs 推進事業（宇部市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	起業創業や中小企業等の経営に関するワンストップ相談窓口の設置、SDGs 推進・活動の取組への支援、情報発信による新たなビジネスチャンスを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府） （令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	主要事業全体の効果で、新規出店数の前年度比+1件を想定している。 相談窓口を備える「うべスタートアップ」での相談を経て、令和5年度に中心市街地内での起業に至った事業者は2件であった。
事業の今後について	今後も、専門家等の無料相談や産・学・公・金と連携した各種セミナーを実施するなど事業を継続し、さらなる起業創業につなげていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度においては目標値の16件/年を上回る33件/年の新規出店があり、計画開始後常に目標値を上回っている状態が続いている。中心市街地において新規出店の機運が高い状態が続いていると考えられるが、引き続き各種事業の活用・効果発現を図るため、市公式SNS等を活用した幅広い情報発信による事業の周知や、対象要件・エリア等の見直しをはじめとした事業内容の再検討などを行っていく。

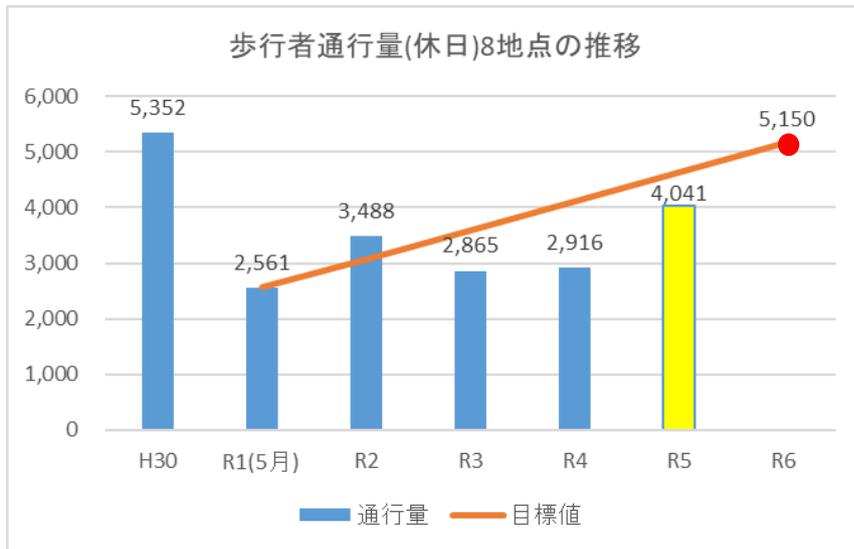
これら実施中の各事業の継続及び更なる効果発現による開業に加え、各種事業効果に依らないいわゆる自主開業も相当数見込まれることもあり、令和6年度も一定数の新規出店はあると推測されるため、目標達成は可能と見込んでいる。

一方で、中心市街地内での閉業店舗も少なからず存在しており、新規出店数から閉店数を引いた純増数は、令和5年度が中活計画開始後で最小となっている。また、主要商店街周辺の営業店舗数（P2参照）は減少傾向にあるため、引き続き新規出店に向けた支援を継続するとともに、長期的な視点で出店後のサポート（閉業を防ぐための取組）等についても対策を検討していく。

### (3) 「中心市街地歩行者通行量（休日1日当たり）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 82～P. 84 参照

#### ●調査結果と分析



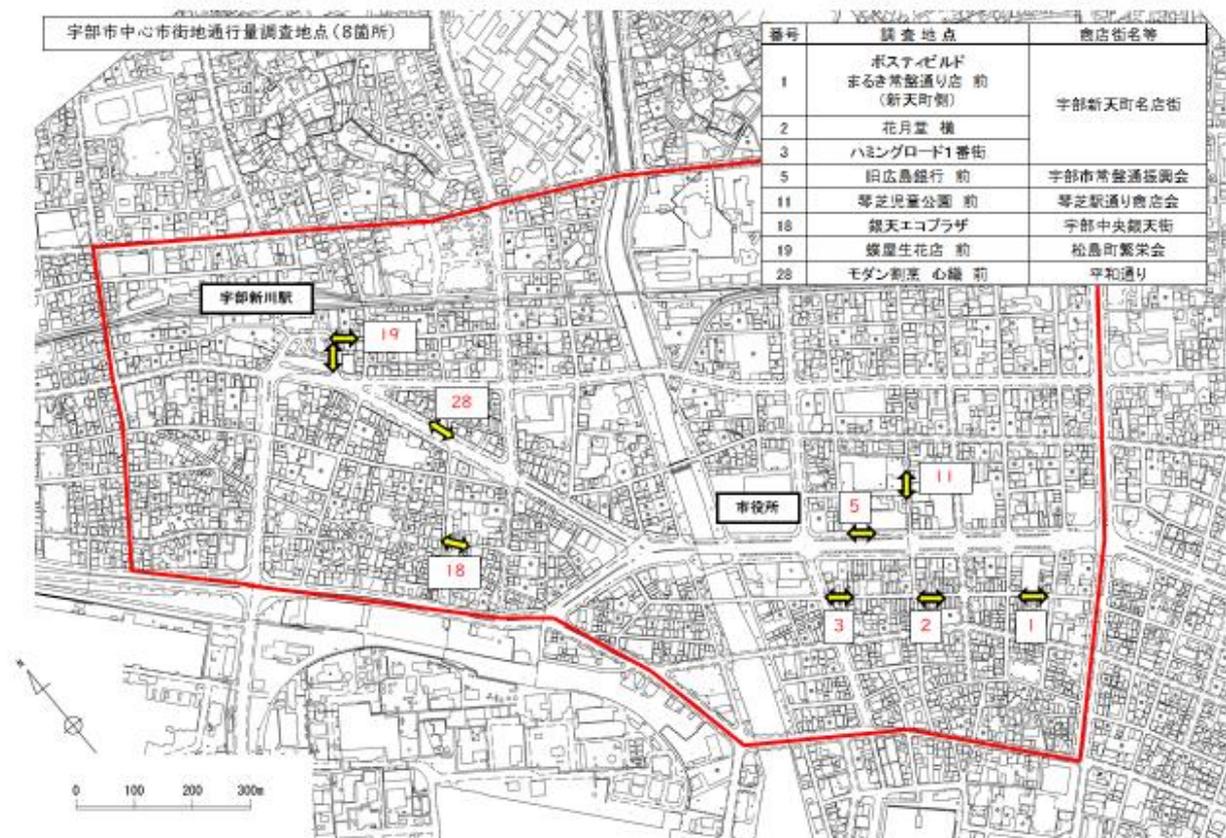
年	(件/年)
R1	2,561 (基準値)
R2	3,488
R3	2,865
R4	2,916
R5	4,041
R6	5,150 (目標値)

※調査方法：中心市街地の8地点における現地調査

※調査月：令和5年10月

※調査主体：宇部市

※調査対象：8地点を通行する自転車及び歩行者（合計）



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点1	402	1,070	618	617	888	
地点2	373	393	382	435	558	
地点3	475	445	461	441	483	
地点5	201	567	198	270	410	
地点11	125	229	188	142	145	
地点18	204	216	188	168	147	
地点19	644	456	709	703	1,254	
地点28	137	112	121	140	156	
合計	2,561	3,488	2,865	2,916	4,041	

### 〈分析内容〉

目標値には届いていないものの、基準値や前年度からは大幅に増加した。特に増加の大きい地点19は、アニメ映画「シン・エヴァンゲリオン劇場版」ラストシーンの舞台のモデルとなった場所のすぐ近くであり、同アニメにちなんだ周遊型イベント「まちじゅうエヴァンゲリオン」の開始にあわせた“聖地巡礼”の観光客が多かったものと思われる。また地点5や地点1は国道190号（常盤通り）のウォークアブル化に向けた社会実験の効果が表れていると考えられる。

しかしながら、8地点合計では基準値から6割近く増加している一方で、ほぼ増加していない地点（地点3、11、28）や減少している地点（地点18）もあることから、エリア内の回遊性向上やその地点周辺に出向くための目的づくりに課題があるといえる。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 大型空き店舗等利活用事業（宇部市、民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～令和8年度【実施中】
事業概要	旧山口井筒屋宇部店跡地に「子育て支援拠点」と「交流機能」を核とする公共機能を整備するとともに、商業施設などの民間機能を誘致する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） （令和5年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本事業によって770人程度の歩行者通行量増加を見込んでいるが、令和2年度9月市議会において施設設置条例案が否決されたため、ゼロベースから再検討となり、事業着手に遅れが生じた。 令和5年度に施設の基本設計を完了し、既存建物の解体に着手した。
事業の今後について	令和7年度には新たな建物（にぎわい交流拠点）の建設を開始し、令和8年度の整備完了・にぎわい交流拠点のオープンに向けて事業を進めていく。

②. 広域情報集約発信事業（株にぎわい宇部、商店街）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	イベント情報等の一元管理と情報発信アプリ等を開発することで、地域内外からの来訪者や観光客のまちなかへの関心を高める。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（経済産業省）（令和3年度） [国の支援措置なし]
事業目標値・最新値及び進捗状況	本事業により1,915人程度の歩行者通行量増加を見込んでいる。新聞や折り込みチラシ等によるPRや商店街等の情報発信サイトを構築するなど効果的な情報発信を継続している。お店や人の魅力をより深く掘り下げ発信する情報サイト「うべとっぴんプラス」では毎月3回の定期的な記事発信のほかイベント情報等を随時発信し、月毎のサイト閲覧数も増加傾向にある。
事業の今後について	掲載情報の拡充を図り、商業・観光・イベント等様々な情報発信を展開していくとともに、閲覧者の増加に向け取り組んでいくことで、中心市街地への来訪者の増加、商業者等の支援へつなげていく。

③. 新天町二丁目大型空き店舗利活用事業（民間事業者、宇部市）

事業実施期間	令和3年度【済】
事業概要	空きビル（旧レッドキャベツ新天町店）の空きフロア等を利用して若者支援施設等を整備し、にぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値の設定はない。 令和3年度に整備を完了し、令和4年5月から「若者ふりスペース」及び「子育てサークルときわ通り」の利用を開始した。 R5年度の1日あたり平均利用者は「若者ふりスペース」が24人、「子育てサークルときわ通り」が56人であり、にぎわいの創出に一定の効果が出ている。
事業の今後について	引き続き、多くの方に利用いただけるよう施設の周知を図り、にぎわいの創出につなげていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度は、目標値には届いていないものの基準値や前年度を大きく上回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の5類移行により外出自粛の風潮から脱却しつつあることや、各種イベントが以前のような規模で開催されるようになったこと、周遊型イベントの開催等により、市民の中でも外出の機運も高まっていると思われる。また、主要事業である「大型空き店舗等利活用事業」は事業着手に遅れが出たが、その他の各種事業は概ね順調に進捗しており、効果発現もあることから、目標達成は可能と見込んでいる。

一方で、通行量がほぼ増加していない地点や減少している地点もあることから、今後は各事業の効果を中心市街地全体へ波及させ、エリア内全体のにぎわい創出を図るための方策も検討して

いく必要がある。